

東京建設コンサルタント新本社ビル

建築主・監理者：株式会社東京建設コンサルタント 岸 輝親
 設計者：清水建設株式会社 竹内雅彦、斎藤利昭
 監理者：株式会社松田平田設計 藤森 智
 施工者：清水建設株式会社 野口高行

免震化した経緯及び企画設計等

安全なインフラの担い手としての企業の本社ビルである。よって建築も高い安全性を備えたものとするを標榜し、コンクリート造による中間階免震構造を採用した。土木設計コンサルタント企業のアイデンティティーの表現として躯体そのものを打放し仕上として利用し、免震装置を見せることで企業姿勢を目に見える形で表現した。免震上部の居室部分を守ると同時に免震層の高さを利用し居室部分を隣接する山手線のレベルより上に配することで、外部への視界が広がる良好な執務空間を確保した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

「完全無柱オフィス」、「構造合理性を伴った建築表現」のコンセプトに基づき構造計画を行ったRC造中間階免震建物である。

1階と2階の間に免震層を配置して、1階を土味的スケールの厚さのRC壁、2階以上を外装PCa版+RCコアウォール+プレストレス格子梁により構成し、最大14mスパンの完全無柱オフィス空間を実現した。外装PCa版は柱及び耐震壁として利用した。外装耐震壁の配置は鉛直及び地震時の応力分布に基づき決定し、構造合理性を伴った建築表現を追求した。大地震時においても外装PCa構造体は弾性範囲内に留まり外装機能は維持され、免震化により可能となった建築表現である。

免震層は、建物内部側に免震装置を集約配置することで、平均面圧を高めて長周期化を図り、耐震安全性を向上させた。装置から外周部に跳ね出したプレストレス大梁を建物正面に表して、土味的風景の創出を試みた。



建物外観（撮影：新建築写真部）

建築概要

建設地：東京都豊島区北大塚1-15-6
 建築主：株式会社東京建設コンサルタント
 設計施工：清水建設株式会社
 監理：株式会社松田平田設計、株式会社東京建設コンサルタント
 竣工：2006年8月
 建築面積：868.43㎡ 延床面積：5,980.28㎡
 階数：地上7階、地下1階 高さ：35.7m
 構造種別：鉄筋コンクリート造

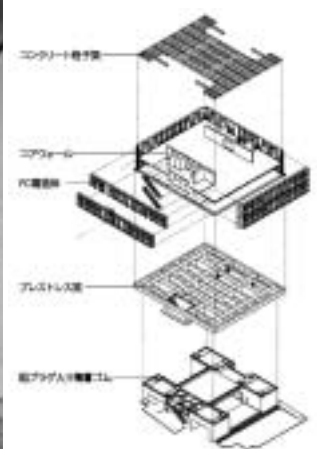
選評

建物正面に立つと一階と二階の間にしっかりとした免震装置が見える。明らかに免震構造の建物とわかることを意図したデザインである。正面で視線を受ける昇り庭までまっすぐに抜けるエントランスホールと地下駐車場からなる下部構造、そしてその上に載せられた一塊の上部構造のオフィスという明快な構成である。外装は構造体をかねるプレキャストコンクリートが全面を覆い、一方、内部は剥き出しの格子状プレストレス・コンクリート梁が空間の性格を決定付けているなど、全体に構造の意図がそのままデザイン表現へと昇華されている。室内の梁下寸法は2,800であるが、露出梁としているため、天井高で3,400あるオフィス空間は伸びやかである。均質な無柱のオフィス空間に対して、外装PCa版の応力集中箇所に配されたコンクリートパネルが、かえって空間的变化を内観に与えていて興味深い。これはまた外観に個性を付与するものともなっている。免震構造として新しい提案があるわけではないが、免震構造を存分に生かしつつ、構造の考え方を直截的にデザインに表現した統合度の高い優れた作品である。

(六鹿正治)



正面外観（撮影：新建築写真部）



全体構成図